

キッズドアの活動は、
みなさまからのご寄付によって支えられています。
無料学習会や体験活動を必要としている子どもたちに
届けるため、ぜひ財政的なご支援をお願いいたします。



マンスリーサポーターの募集

月々 1,000 円から毎月一定額を継続的にご支援いただけます。
ウェブサイトから、クレジットカードで簡単にお手続きいた
だけます。

<https://kidsdoor.net/support/individual>



ご寄付方法のご案内

- 銀行振込 三井住友銀行小岩支店
口座番号 普通 7051849
宛先 特定非営利活動法人キッズドア
- 郵便振替
口座記号番号 00120-4-743715
宛先 特定非営利活動法人キッズドア



寄付控除をお考えの方に

公益財団法人信頼資本財団の共感助成を通して、キッズドアに
ご寄付いただくと寄付控除を受けることができます。

<https://congrant.com/project/shinrai/440>



発行日：2021年4月1日

KIDS DOOR

発行：特定非営利活動法人キッズドア

<https://kidsdoor.net/>

〒104-0033 東京都中央区新川1-28-33 Glanffice 茅場町ビル2階

TEL：03-5244-9990 FAX：03-5244-9991

info@kidsdoor.net

©2021 NPO Kidsdoor

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製複写（コピー）や転載することは禁止されています。
あらかじめ許諾を求めてください。



高校生支援の 調査研究報告書

子どもの貧困対策
無料学習支援・生活支援事業の
卒業生の後追い調査

調査概要

調査の目的

高校生世代を支援することは、高校中退を予防したり、中退してもすぐ学び直しにつなげることで、将来の損失を防ぎ、社会福祉費の抑制にもつながる。また、支援の結果、社会で自立することは、貧困の連鎖を断ち切ることにもつながる。

キッズドアでは、高校生世代の支援を実施していることから、その効果を把握し、こういった側面があるか分析を行う。

高校生世代を対象としたアンケート調査	
調査目的	キッズドアの学習会に通うことでの変化や効果について定量的に把握する
調査対象	キッズドアの学習会に通っていた17～22歳
標本数	165件 ※依頼件数
抽出方法	対象となる学習会に通っていた17～22歳のうち、連絡が取れた人 ※対象となる学習会は、図4-1-8にて掲載
回収数	67件 (40.6%)
調査方法	インターネット調査 ※対象者にQRコード及びURLを連絡し、インターネット上で回答
調査時期	令和2年3月9日～3月30日
調査機関	株式会社インテージリサーチ

高校生世代を対象としたヒアリング調査	
調査目的	高校生世代（17～22歳）へのアンケート調査の結果から、代表的な例を抽出し、学習会に通うことでの変化や効果についてさらに深掘りする
調査対象	アンケート調査に回答した者のうち、以下のいずれかの条件に合致する者 なお、性年代・通っていた学習会や通っていた年数で偏りが出ないように考慮する ●将来やりたいことが見つかったと回答した者 ●情緒面での変化がみられた者
標本数	10名
抽出方法	学習会にて協力を依頼
調査方法	Zoomにて実施
調査時期	令和2年7月12日～7月19日
調査機関	株式会社インテージリサーチ

高校生世代の保護者を対象としたアンケート調査	
調査目的	キッズドアの学習会に通うことでの子供の変化について、保護者の視点から定量的に把握する
調査対象	キッズドアの学習会に通っていた17～22歳の保護者
標本数	129件 ※依頼件数
抽出方法	学習会にて協力を依頼
回収数	73件 (56.6%)
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	令和2年7月14日～8月14日
調査機関	株式会社インテージリサーチ

2-3. 調査項目

(1) 高校生世代を対象としたアンケート調査

分類	主な調査項目
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の学年 ●家族構成 ●家庭の経済状況 ●保護者の最終学歴 ●現在の状況（就職決定、大学進学等） ●通っている（いた）学習会 ●キッズドアに通った年数
学習会の利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ●学習会への参加頻度 ●学習会の居場所としての評価 ●困ったときに相談できたか ●キャリアイベントやワークショップへの参加経験 ●ゲストスピーカーの話を聞いたことがあるか
学習面での変化	<ul style="list-style-type: none"> ●学校での勉強に対する意欲の変化 ●普段の勉強時間及び学習会に通う前後の学習時間の変化 ●学校の成績の変化
本人の資質の改善	<ul style="list-style-type: none"> ●約束や予定を守ることへの意識の変化 ●計画を立てて行動できるようになったか ●生活習慣の変化
将来への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●学習会に通う前に考えていた進路（実際の進路と相違があるか） ●将来やりたいことが見つかったか ●将来について相談した相手 ●学校の勉強以外の資格取得状況 ●奨学金等の情報について ●進路を決めるに当たって困っていたこと
情緒面での変化	<ul style="list-style-type: none"> ●前向きに取り組めるようになったか ●気持ちを人に伝えることができるか ●人に相談したりできるようになったか ●周りに感謝の気持ちを伝えるようになったか

(2) 高校生世代を対象としたヒアリング調査

分類	主な調査項目
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の状況（就職決定、大学進学等） ●キッズドアの学習会に通い始めた時期 ●キッズドアの学習会に通おうと思ったきっかけ
学習面での変化	<ul style="list-style-type: none"> ●学習会に通い始める前の、勉強についての思い ●学校の成績の変化を感じた時 ●成績の変化で感じた気持ち ●キッズドアの学習会以外での勉強場所 ●勉強を楽しいと思うか、将来の役に立つと感じているか
本人の資質の改善	<ul style="list-style-type: none"> ●食生活として、バランスのよい食事を摂っているか ●睡眠時間 ●運動の頻度 ●収入と支出のバランス
将来への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●保有している資格（取得のきっかけ、キッズドアへの相談状況） ●将来の夢 ●将来のために頑張っている・苦労していること ●奨学金の有無 ●奨学金に関する情報の入手方法
学習会の利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ●学習以外のことで学んだこと 【学習会のスタッフ・ボランティアとの関係性】 ●スタッフとの関係性、相談状況 ●ボランティアとの関係性、相談状況 ●進路や将来についての相談、スタッフ・ボランティアからの影響 【キャリアイベント等の活用】 ●キャリアイベントやワークショップへの参加（参加有無、きっかけ、参加したことによる効果） ●ゲストスピーカーの話を聞いたか（参加有無、きっかけ、感想）
親との関係性	<ul style="list-style-type: none"> ●同居家族 ●同居家族との関係性 ●兄弟への接し方における変化
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●現在困っていること、将来のために解決したいこと ●キッズドアの学習会で一番良かったところ ●キッズドアの学習会で改善してほしいところ ●キッズドアを知らない人に紹介するときの説明 ●お世話になったスタッフやボランティアの方へ伝えたいこと

報告書の見方

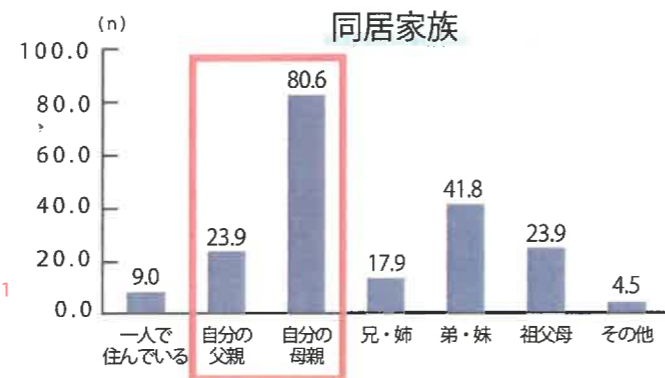
- (1) 調査結果の数値は、回答率 (%) で表示している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数(度数)はnで示している。
- (2) %の数値は、小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示している。よって、単一回答(○は1つ)の質問であっても、各回答の数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 設問には、単一回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の選択式の回答と、具体的に数値を回答する場合がある。複数回答の設問の場合は、その回答割合(%)の合計が100.0%とならないことがある。

回答者の属性

回答者数: **67名**
 回答者のうち、母子家庭: **40名**
 年齢: **17歳~21歳**
 年収(中央値): **230万円**

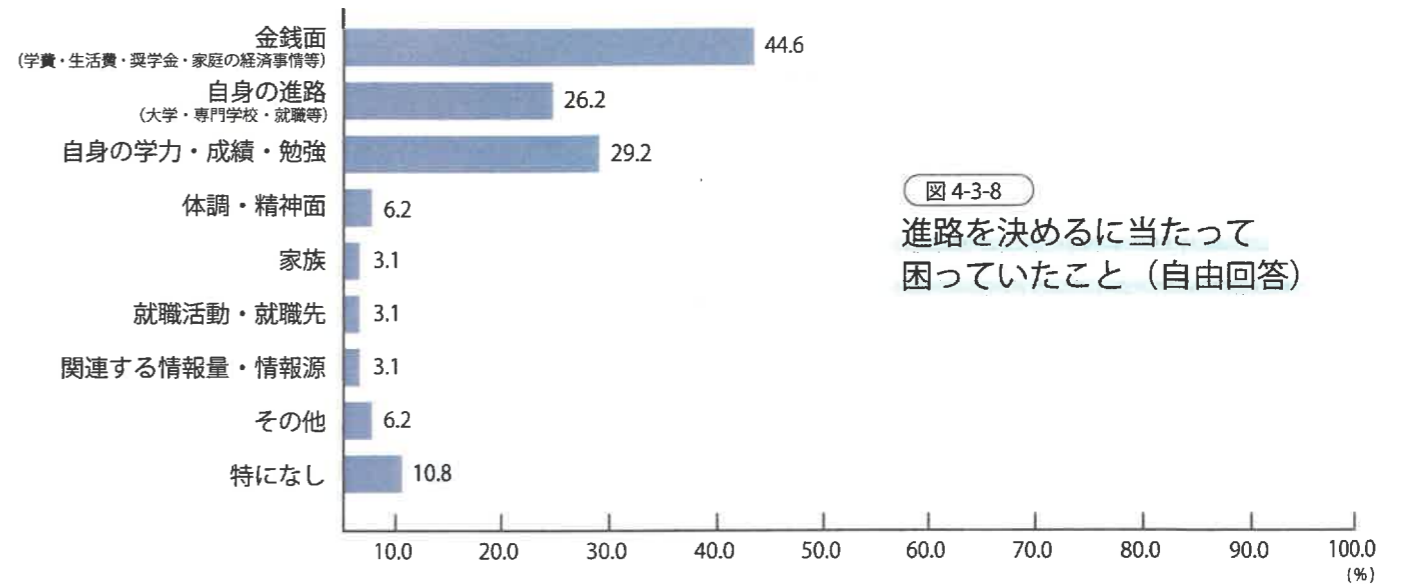
児童のいる世帯の世帯年収の中央値は **633万円**^{※1}

※1 厚生労働省(2015)「2015年国民生活基礎調査の概況」



1. 進路に関する思い・悩み

進路を決めるに当たって困っていたことについての自由回答では「金銭面(学費・生活費・奨学金・家庭の経済事情等)」が44.6%と最も高く、次いで「自身の学力・成績・勉強」が29.2%、「自身の進路(大学・専門学校・就職等)」が26.2%となっている。



分類	主な回答	
金銭面 (学費・生活費・奨学金家庭の経済状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ●学費のこと ●家庭状況など 	●奨学金関係
自身の学力・成績・勉強	<ul style="list-style-type: none"> ●学力が伴っているか ●勉強についていけるか 	●勉強方法
自身の進路 (大学・専門学校・就職等)	<ul style="list-style-type: none"> ●自分に何が合っているのかわからない ●大学に進学するか、専門学校に進学するか ●本当に自分が進学したい学部なのか分らなかった 	

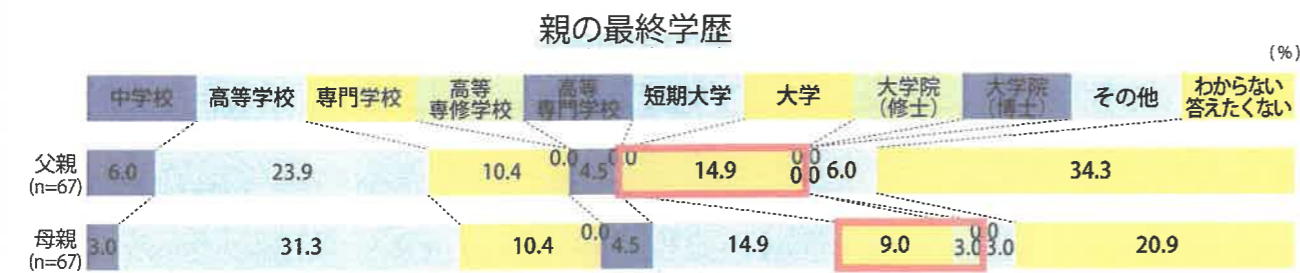


親の学歴と子の学歴から見る調査対象の特性

A. 子どもに聞いた親の最終学歴 大学+大学院

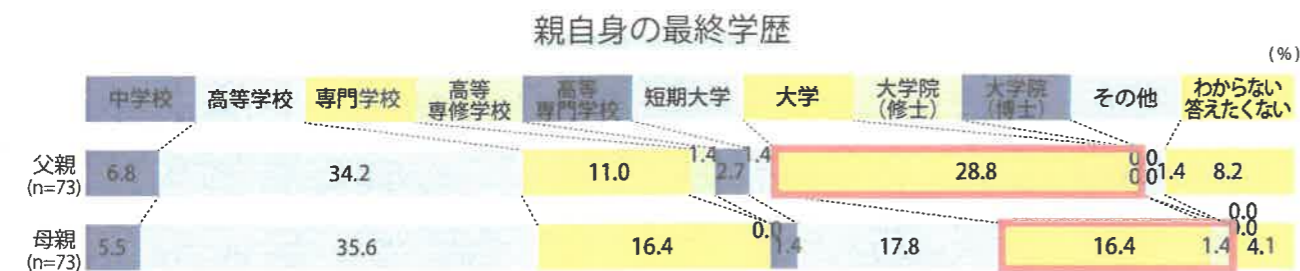
父親 **14.9%** 母親 **12%**
 「わからない・答えたくない」が 父親 34.3% 母親 20.9%

親の最終学歴を子どもが知らない状況



B. 親に聞いた親自身の最終学歴 大学+大学院

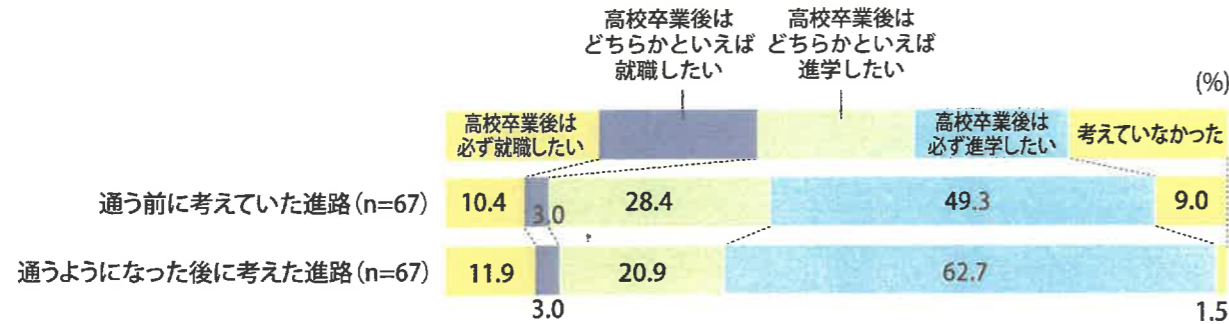
父親 **28.8%** 母親 **17.8%**
 「わからない・答えたくない」が 父親 8.2% 母親 4.1%



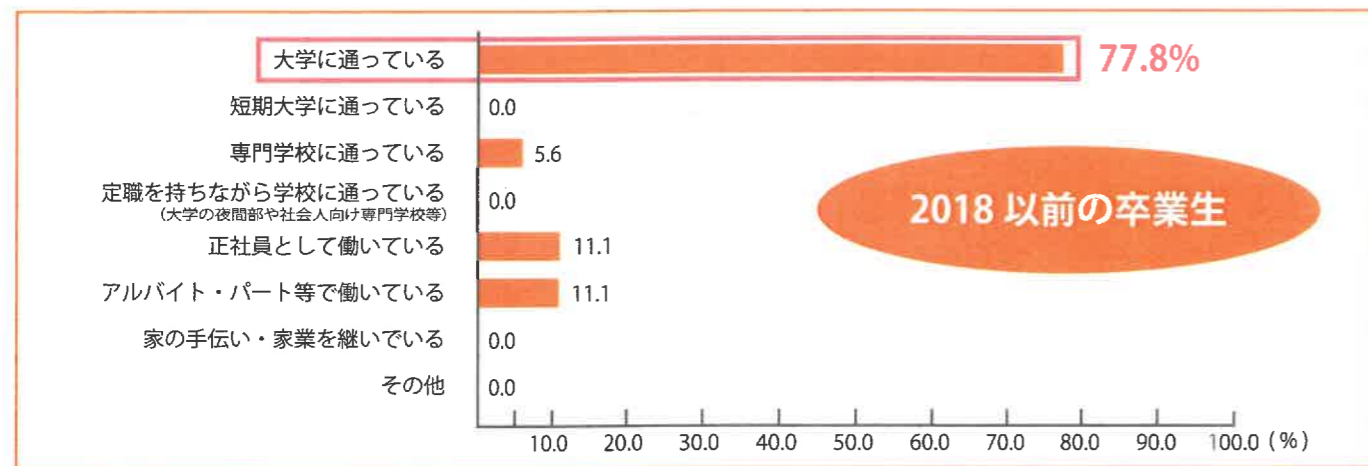
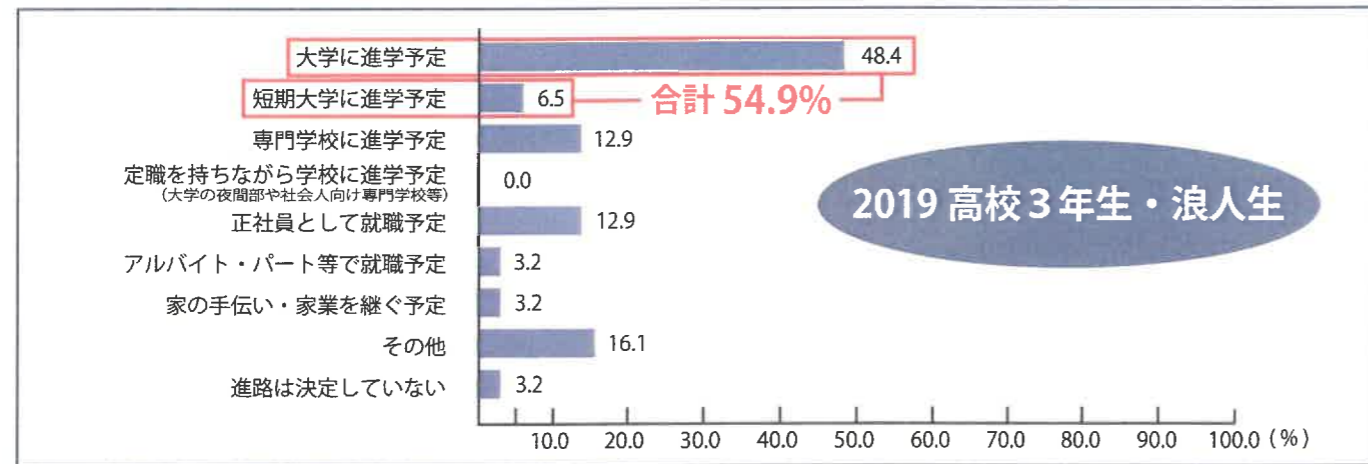
2. 進路・奨学金について

キッズドアの学習会に通う前後で比較すると、自身の進路について「高校卒業後は必ず進学したい」が49.3%から62.7%と大きく増加している。これは、実際に大学等に通っているスタッフやボランティアの方を身近に感じたことで、大学や大学卒業後の就職について具体的にイメージできるようになったことが大きく影響していると考えられる。ヒアリングにおいても、「なんとなく進学したいと思っていたが、スタッフの方と話していると具体的に将来やりたいことがはっきりし、大学で学びたいことが鮮明になった」という意見も聞かれた。

図3-1-6 高校生世代の自身の進路への考え（単一回答）



Q. 現在の状況をお答えください。(回答いくつでも) ※高校生や浪人中の方は、今後の予定をお答えください。



高校時点でキッズドアの学習会に通った子の大学進学率 大幅 UP
→ 貧困の連鎖を断ち切っている

大卒者の常勤での雇用率が81%に対して、高卒者は56%。全世帯の平均大学進学率70.3%と比較し、世帯年収が300万円以下の家庭の子の大学進学率は43.4%*2 (短大を含む)

*2 木村治生 (2019) 「低所得世帯の高校生の進路選択—パネルデータを用いた「貧困の連鎖」に関する検討—」

〈ヒアリング調査結果から〉

“大学生と関わっていく中で、彼らのようになりたいと憧れを持つようになった”

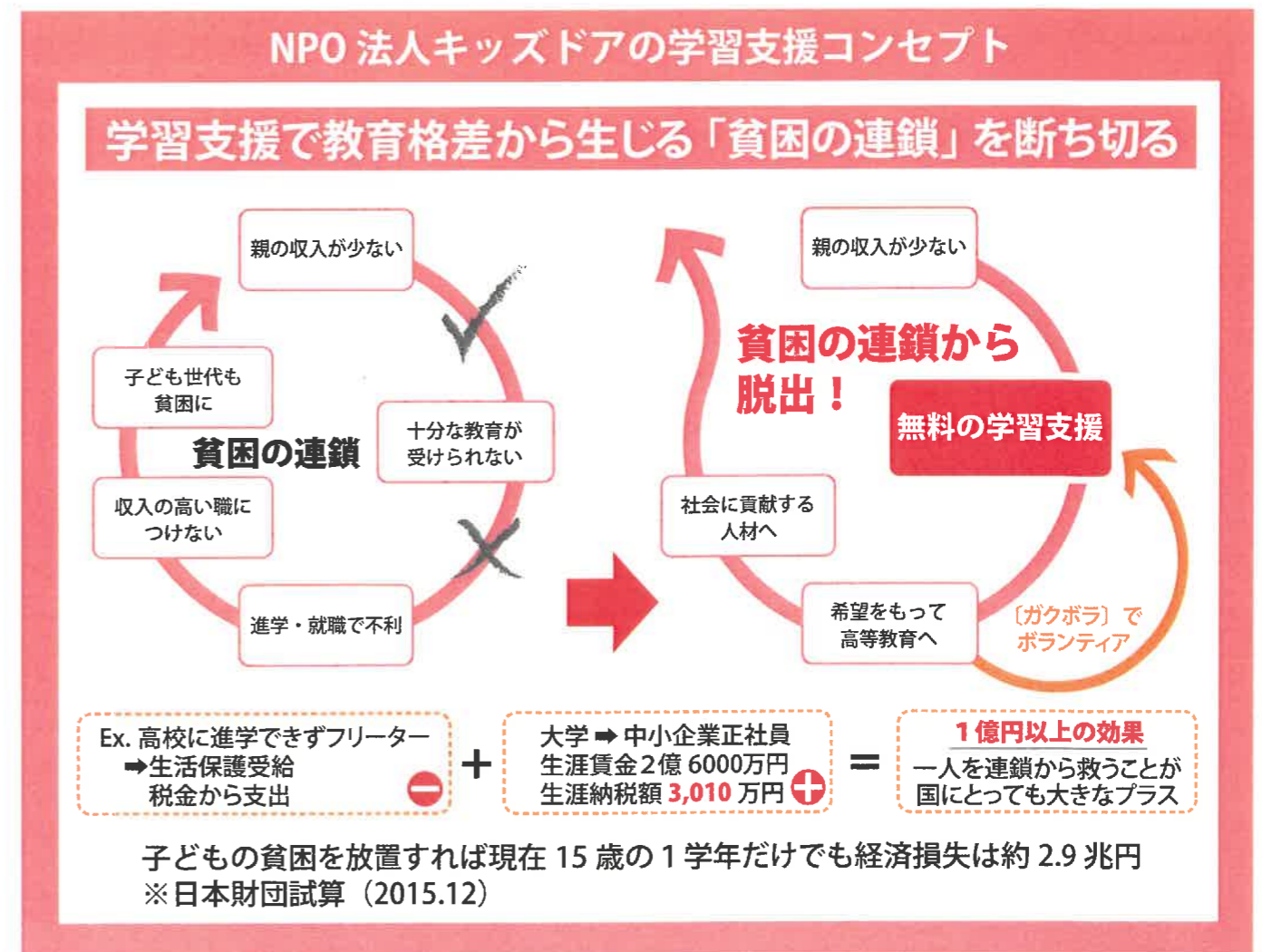
・キッズドアのスタッフやボランティアの大学生と関わっていく中で、中学生に丁寧に勉強を教え、話をしている姿を見て彼らのようになりたいと憧れを持つようになった。そのような理由から、現在、大学は教育学部に通っている。またキッズドアのようなボランティアもやりたいと思っている。大学生のスタッフやボランティアが楽しそうに中学生に接しているのがキラキラして見えて、仕事は楽しいものと初めて思うことができた。奨学金の新制度についてはメディアなどの報道でその存在を知ったが、詳細が分からなかったため、キッズドアに通っている高校の後輩に、説明会や締切日等詳しいことを教えてもらった。

“自身の強みをスタッフに教えてもらった”

・AO入試が一般入試にすべきか悩んでいた時に、私自身は面接や小論文が得意だったので、AO入試のほうが強みが出せるのではないかとスタッフに教えてもらった。また、行きたい大学もいくつかピックアップはしていたが、どの大学が自分に合うか分からなかったため、スタッフに相談したところ、見学に行くことを勧められた。

“実際にIT企業で働いている人に、いろいろなことを聞くことができた”

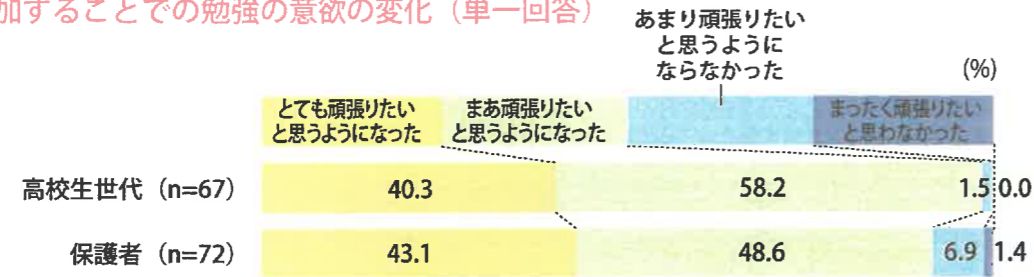
・将来はIT企業で働きたいと考えている。学習会で英語を話せたことが大きく、実際にボランティアで来ている人で、IT企業で働いている人に、いろいろなことを聞くことができたことが良かったと思う。奨学金は、キッズドアや通っていた高校で自分で聞くなどして情報集めた。キッズドアのゲストスピーカーのスピーチで自分が知らない奨学金があることに気がついた。



3. 学習面について

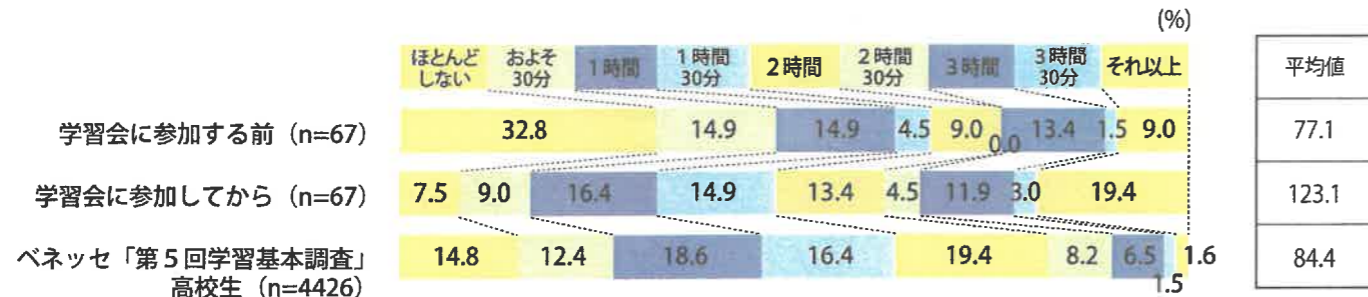
勉強への意欲の変化としては、キッズドアの学習会に参加することで高校生世代・保護者ともに、「とても頑張りたいと思うようになった（とても頑張っている）」と「まあ頑張りたいと思うようになった（まあ頑張っている）」の合計が9割以上と高くなっている。ヒアリングにおいても、「大学に行きたいと思うようになって勉強するようになった」「英語をうまく話したいと思い勉強への意欲が高まった」「自分の分からないところを教えてくれるので納得しながら進められるようになった」という意見も聞かれた。

■学習会に参加することでの勉強の意欲の変化（単一回答）



勉強への意欲の高まりに比例するように、高校生世代の勉強時間も、学習会に参加する前より「ほとんどしない」割合が25.3ポイント減少し、1時間30分以上の割合が大きく増えていることが分かる。なお、ベネッセが2015年に行った調査結果*3と比較すると、1日あたりの勉強時間は、キッズドアの学習会に通うようになった高校生世代のほうが、ベネッセの調査結果よりもより長いことが分かった。ヒアリングにおいても、「勉強する習慣ができた」「勉強が楽しくなった」とう意見も聞かれた。

■学習会に参加前後の、1日あたりの勉強時間（単一回答）

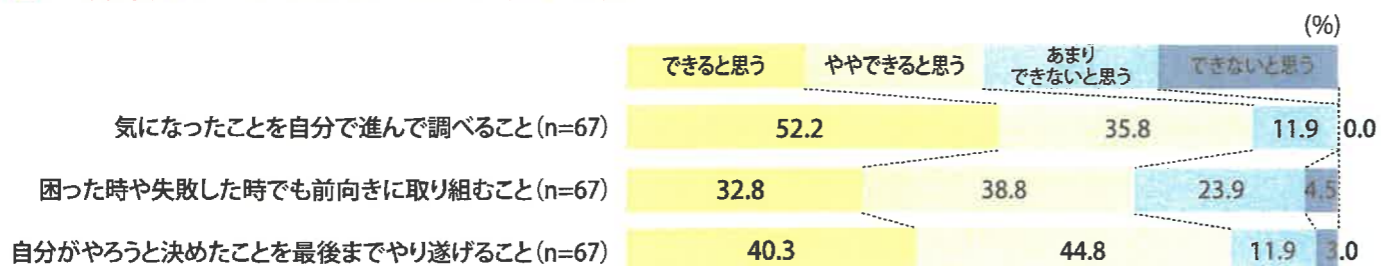


〈ヒアリング調査結果から〉

“学校の勉強もするようになり成績が少しずつ上がっていった”

・学校の英語の成績は良くなかったが、学習会で英語を話す先生と話したいと思い、自然と話すようになった。企業体験で英語を学ぶというプログラムで、自分が言いたいことを上手く言えなかったので、もっと英語をうまく話せたらなと思い、勉強したいという意欲が高くなった。また会話する時に、学校で習う文法等も大事だと気がつき、学校の勉強もするようになり成績が少しずつ上がっていった。

■回答者自身ができることについて（単一回答）



*3ベネッセ (2015)「第5回学習基本調査」

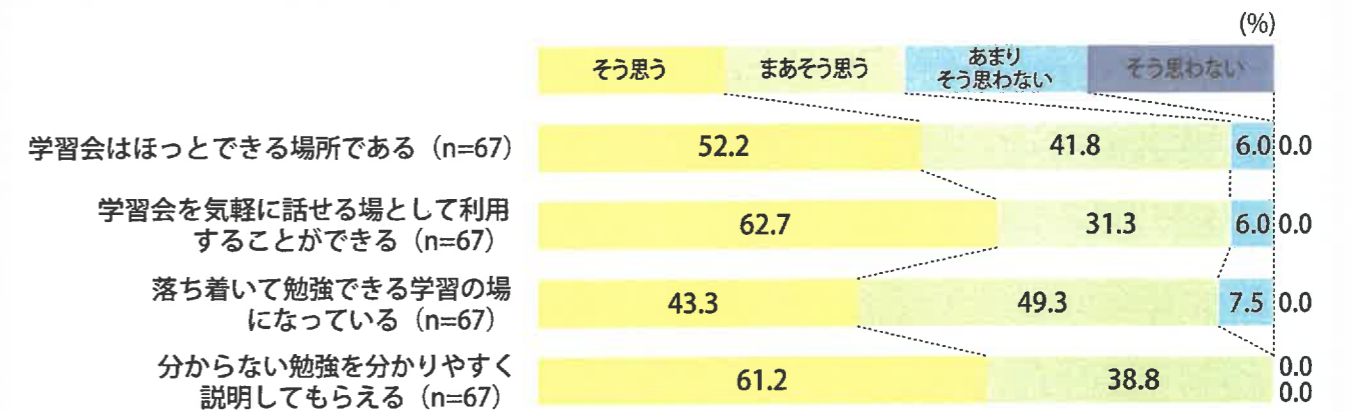
4. キッズドアの学習会に通うことでの効果

キッズドアの学習会に通うことで、生徒自身に影響を与えたこととしては、気軽に相談できる居場所ができたこと、分からないことを聞いたりさまざまな情報を得ることができることといった高校卒業後につながる内容のほか、将来への具体的なイメージができた、スタッフや友人との信頼関係の構築につながった人が多く見られた。

(1) 経済的負担の軽減 - 塾の費用がなくても、学習できる場所を獲得した

キッズドアの学習会を、「気軽に話せる」「分からない勉強をわかりやすく説明してもらえる」場所と認識している人が多かった。ヒアリングにおいても、「自分に合った受験方法や勉強方法を教えてもらった」「受験科目の代替になる資格試験の情報を教えてもらった・試験対策をしてくれた」といった意見が聞かれた。

Q. 高校生世代が学習会について感じる事（単一回答）



〈ヒアリング調査結果から〉

“入学できる高校がないと中学で言われ、キッズドアに通い始めた”

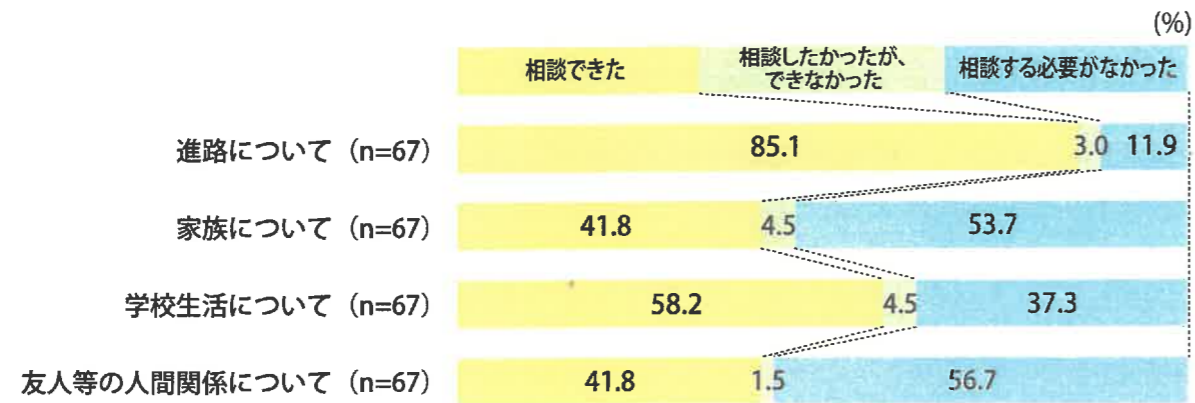
・塾に行っていなかったが、入学できる高校がないと中学で言われ、キッズドアに通い始めた。学校の授業が分からなかったが、キッズドアに通うようになって、分からないところを質問するうちに、授業にもついていけるようになった。行きたかった高校に合格できたので、成績も上がったと実感できた。高校生になってからは週3回ほど通っていたが、キッズドアで教えてもらうことで苦手だった数学や英語の成績が、4や5がとれるようになった。分からないことが分かるようになって、勉強が楽しいと思えるようになった。



(2) 社会とのつながり - 相談できる相手に出会える

キッズドアの学習会のスタッフやボランティアの人と接する中で、進路の話以外にも、家族のことや友人関係等、さまざまな相談ができると感じている人が多いことが分かった。ヒアリングにおいても、スタッフやボランティアの人に、日常でのちょっとした悩み等も話せていたという声が多く聞かれた。

Q. 高校生世代の、キッズドアのスタッフ・ボランティアへの相談（単一回答）



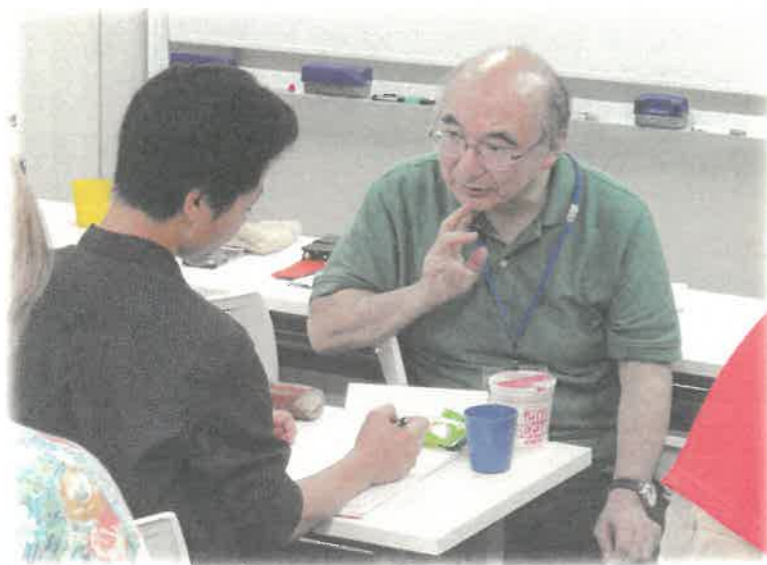
〈ヒアリング調査結果から〉

“いろいろな話を聞いたことで、大学に行こうと思えた”

・学校の愚痴、進路の先生が苦手ということなどを相談していた。一番よく話していたのは、進路のこと。キッズドアで相談していろいろな話を聞いたことで、大学に行こうと思えた。

“第二の家族のようだった”

・勉強、資格、恋愛、友達関係の相談を含めて、色々と相談していた。自分のお姉ちゃんやお兄ちゃんみたいな感じで、第二の家族のようだった。進路について相談していたが、自分の力で稼ぎたいと思い、専門学校ではなく就職を選んだ。



(3) 勉強以外の学び - 身近な大人と交流や体験活動

キッズドアで開催しているキャリアイベント・ワークショップやゲストスピーカーの話については、参加していた割合は半数以下と、そこまで高くないものの、「参加できなくても興味はあった」という意見をヒアリングで多く聞いたことから、これらのイベントは、キッズドアの学習会で得られる貴重な経験になっていると考えられる。キャリアイベント・ワークショップを通じて、企業で働く人を身近に感じたり、自身の発表の場を与えられたことで、「自分が知っている世界が広がった」「将来について具体的にイメージすることができた」「今の自分に足りないものが何かわかった」という意見が多く聞かれた。

〈ヒアリング調査結果から〉

“普通の塾ではしてもらえないようなことを多く経験させてもらえた”

・キッズドアでは、学年はあまり関係なく、個々人に合わせてくれるところが魅力的でそこが普通の学習塾・進学塾と大きく異なっていた。クリスマス会や東京での企業訪問や将来身につけるとよいスキルのアドバイス等、普通の塾ではしてもらえないようなことを多く経験させてもらえたため、私にとっては、とてもよい場所だった。食事についても、自宅に準備されていないこともあり、キッズドアで食事をとれることが嬉しかった。イベントは比較的参加していたが、特に印象に残っているのはメリルランチ。将来について具体的な想像ができていなかったため、銀行や外資系の仕事を見てみたいと思っていた。将来の夢をつかもうという学習（自分の将来の夢の設計書作り）で銀行や外資系の仕事を詳しく知ることができ楽しかった。それ以外にも、予備校受験のプロの先生の進学についての悩みや大学受験の説明を聞いたことが、大学に対するイメージがはっきりと持てなく、高校3年生という1年間の過ごし方を知りたかった私にとって、とても役に立った。

“挑戦しないと分からないことがあると気付けた”

・キッズドアで一番大きかったのは、挑戦しないと分からないことがあると気付けたこと。自分が置かれた環境の中で妥協しながら物事を決めていくことが多かったが、頑張れば新しいことに挑戦できるとわかったことはとても大きいと感じている。色々なバックグラウンド、生き方をしている人がたくさんいて、失敗を失敗と捉えるのではなく経験値として、その人の価値に上乗せしていくよう生き方をしている人が多く、そういう人に出会えたことが大きかったと思う。English Driveでは、私が頑張りたいことを多くの人が全力で応援してくれた。また、やりたいことを言葉にすることで応援されることを実感したので、新しいことに挑戦することがだんだん楽しいと感じるようになった。

“コミュニケーションが学べた”

・キッズドアでは人とのコミュニケーションが一番学べたと思う。一人っ子で親も共働きのため一人で過ごす時間が長かったが、学習会に行くと必ず誰か友達と会えるというのが良かった。先生と生徒も、友達のように話すことができるし、勉強も静かにできてよかった。イベントはテーブルマナー講座や、英語のワークショップ等、比較的よく参加していた。テーブルマナー講座に参加して、会食等での作法を学ぶことができ、社会人になってから会食で恥をかかないようにできると思った。英語のワークショップでは、英語で会話ができると楽しかったので、もう少し英語力をつけていきたいと感じた。ワークショップに参加すると、自分から話す必要があるため、コミュニケーション能力が上がったと思う。

“ボランティアから刺激をたくさんもらった”

・キッズドアの方は、各個人のバックグラウンドが面白い人が多く、突然海外に行ったりなどと自分が予想がつかないような人生を歩んでいる人が多かった。そういう人たちを見て、中学高校と進んで日本の大学に行って就職するという普通の選択をしなくてもいいと思うきっかけになった。そして彼らから刺激をたくさんもらった。

キッズドア「高校生支援の調査研究」報告書を読んで

阿部 彩

東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター

本調査は、キッズドアの学習会に高校生の時に通った「卒業生」たち（年齢17～22歳）とその保護者を対象としたものであり、有効回答数は卒業生は67件（回収率40.6%）、保護者は73件（回収率56.6%）と若干少ないものの、学習支援事業の効果を見るために貴重なデータである。調査では、10名の卒業生に対するインタビュー調査も行っており、卒業生自身の言葉による事業の評価を見ることもできる。

そもそも、このような学習支援事業のフォローアップ調査は珍しい。私が知っている中では、首都圏X市の生活保護受給世帯の子ども（中学生）を対象とした学習支援事業の卒業生のフォローアップ調査（首都大学東京子ども・若者貧困研究センター2018）、同じく首都圏4市区の学習支援事業の効果測定（松村2020）や、埼玉県アスポート事業の評価（田中2019）があるが、それ以外は殆どないといってもよいであろう。その意味で、事業の実施主体であり、NPO法人であるキッズドアが自己の事業をこのように積極的に評価しようと試みていることは、素晴らしいといえる。

結果は、卒業生本人、保護者ともに、学習支援事業に高い評価を付している。例えば、勉強の意欲については卒業生の98.5%、保護者の91.7%が「（とても、まあ）頑張りたいと思うようになった」と答えており、成績も8割以上が「（とても、やや）上がった」と答えている。しかし、これ自体はそれほど驚くべきこともないであろう。このような評価事業において、回答してくれた人は往々にして事業に対して好意的であるものだからである。私には、それよりも、子どもたちの「声」の方が重みをもって響いた。「キッズドアのスタッフやボランティアの大学生と関わっていく中で、中高生に丁寧に勉強を教え、話をしている姿を見て彼らのようになりたいと憧れを持つようになった」「キッズドアに通う前は、勉強に対して関心や得意科目がなく、赤点をとらなければよいとしか考えていなかった。キッズドアに通うことで、テストの点数が上がった」

このようなコメントを読むだけで、目頭が熱くなる。

そして、これら「声」の合間から、キッズドア事業の真骨頂が見えるように思える。具体的には学校や「塾」とは違う「ゆるさ」「上下関係がない」「塾とは違うから、そんなにがっつき勉強という感じでもない」「勉強も塾とは違った感じで、フランクに突っ込んで聞けるのは、持ち味だと思う」さまざまな「人」との出会い「色々なバックグラウンド、生き方をしている人がたくさんいる」「自分が知らないタイプの大人がいる」「各個人のバックグラウンドが面白い人が多く、突然海外に行ったりなどと自分が予想がつかないような人生を歩んでいる人が多かった」第2の「家」「自分のお姉ちゃんやお兄ちゃんみたいな感じ」「一人っ子で親も共働きのため一人で過ごす時間が長かったが、Relineに行くと必ず誰か友達と会えるというのが良かった」

学習会について感じること（p.29）でも最も多い回答が「（学習会）気軽に話せる場所」（94%）であったこともからも推測できるが、おそらく、いま、「学校」という場所は子どもにとって安心できる場所ではなく、教員は気軽に話せる相手ではないのであろう。また、中高生年齢では、親にもなかなか話せないものである。部活など、子ども中心の活動さえも、「上下関係」や「規律」でがちがちなのかも知れない。だからこそ、子どもたちはキッズドアに「ほっ」としに通ってきていたのであろう。

キッズドアが驚くべき事業なのは、これを大規模に、日本全国で展開している点である。たとえ、どんなに大規模になっても、このアットホームで、ゆったりな雰囲気を守ってほしいと思う。

【参考文献】

首都大学東京子ども若者・貧困研究センター（2018）「相模原市若者すだち事業フォローアップ調査報告書」。
田中聡一郎（2019）「アスポート学習支援の成果」駒村康平・田中聡一郎編『検証-新しいセーフティネット-生活困窮者自立支援制度と埼玉県アスポート事業の挑戦』新泉社, 186-201。
松村智史（2020）『子どもの貧困対策としての学習支援によるケアとレジリエンス』明石書店



講評 阿部 彩

東京都立大学 人文社会学部人間社会学科社会福祉学教室
教授/子ども・若者貧困研究センター長

海外経済協力基金、国立社会保障・人口問題研究所を経て、2015年より首都大学東京（現東京都立大学）人文社会学部人間社会学科教授。同年に子ども・若者貧困研究センターを立ち上げる。専門は、貧困、社会的排除、公的扶助。著書に、『子どもの貧困』『子どもの貧困II』（岩波書店）、『子どもの貧困と食格差』（共著、大月書店）など。『生活保護の経済分析』（共著、東京大学出版会）にて第51回日経・経済図書文化賞を受賞。

調査設計アドバイス 耳塚寛明

青山学院大学 コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科 学部特任教授

1953年、長野県松本市生まれ。東京大学教育学部卒、同大学院教育学研究科 位取得退学。東京大学助、国立教育研究所研究員、お茶の水女子大学を経て現在に至る。日本教育社会学会元会長、長野県教育委員、文部科学省 全国的な学力調査に関する専門家会議 座長。専門は、教育社会学（学力の社会学、教育政策、学校組織など）。『教育格差の社会学』（有斐閣、2014）『学力格差に挑む』（金子書房、2013）『学力とトランジションの危機一閉ざされた大人への道』（金子書房、2007）等。（いずれも編著）

渡辺由美子

特定非営利活動法人キッズドア 理事長

千葉大学出身。2009年特定非営利活動法人キッズドアを設立。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。2018年5月、初めての著書『子どもの貧困～未来へつなぐためにできること～』（水曜社）を上梓。内閣府 子供の貧困対策に関する有識者会議 構成員。厚生労働省 社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員。一般社団法人全国子どもの貧困学習支援団体協議会副代表理事。



調査実施・報告書作成：株式会社インテージリサーチ

(HP: <https://www.intage-research.co.jp/> 本社：東京都東久留米市本町1-4-1) インテージグループの一員として、社会・公共領域をテーマとした調査研究、公的統計調査の受託や民間の市場調査のデータ収集を行う。具体的には、マーケティングの概念・方法論を応用し、人びとの暮らしや経営と政策をつないでいる。ライフサイクルやヘルスケア、経済行動など、幅広い分野において、意識や行動の実態を把握し、要因を分析。各種経済統計を通じた経営の実情や課題の整理を実施し、生活者支援・産業振興などの政策推進に寄与している。加えて、社会の意識や行動の変容を図るなど、環境省や民間企業の環境施策への支援も行っている。

特定非営利活動法人キッズドア <https://kidsdoor.net/>

先駆けて日本の子どもの貧困に取り組む。2019年度は東京、千葉、宮城で1960人の小学生から高校生世代までの子どもに無料学習支援を提供する。無料の学習支援や食事なども提供する居場所を運営する教育支援事業、調査研究やアドボガシーを行う普及啓発活動、子ども・若者の視点から東日本大震災後の復興支援を中心に行う地方創生事業などを展開している。2016年第4回日経ソーシャルイニシアティブ大賞国内部門ファイナリスト

デザイン・印刷：株式会社 滝澤印刷紙工 <http://adson.co.jp/>